

蒲郡の特養「なごみの郷」 入所者 おむつゼロに



「おむつゼロ」の証明書を手に
喜ぶスタッフら＝蒲郡市役所で

蒲郡市柏原町の特別養護老人ホームなごみの郷が、入所者の「おむつゼロ」を達成したとして、県老人福祉施設協議会から証明書を受け取った。東三河では初の快挙という。

おむつゼロは、お年寄りが日中におむつやパッドを使わず、トイレで排便できることを指す。

なごみの郷は社会福祉法人和敬会（新城市）が二〇一四年に開設し、約三十人が利用している。「誰でもできればおむつはしたくない」との考えから、職員が「介護力向上プロジェクト

ト」と題しておむつ外しの実現に取り組んできた。

人は体の水分が不足するとぼんやりしたり、循環機能が低下したりするため、一日千五百ミリの水を飲んでもらうことを目標に。歩行器を使うなどして歩くことで大腸を刺激したり、トイレに座る動作によって排便を促したりしている。

看護統括責任者の葛原さとみさんは「自分で『トイレに行きたい』と言えない

茶 山 園
アビタ 安城南
グエルサウオーク西尾
製造元

人もいる。思いをくみ取ってトイレに誘導することで、いい循環が生まれた」と振り返る。

太田和敬施設長やスタッフらが二十一日、蒲郡市役

所を訪れて稲葉正吉市長に報告した。稲葉市長は「介護は私たちが行く道。多くの施設でチャレンジしてもらえるといい」と話した。

（木下大資）